

◆ 最後の一押し ◆

昨年の秋頃から、3年生との面接をすることが多くなった。多くは進学に関連するものだけれど、部活動の報告などを含めると結構な数になる。そこには一人一人の大切な物語があり、涙することも多かった。

今年度の3年生は大学入学共通テストを巡る様々な混乱に加え、インターハイや全国高等学校野球選手権大会の中止、全国総文祭のWeb開催等様々な面で翻弄されてきたが、この高校生活も残りわずかとなってきた。



個別試験の期日が迫るそんな中、最近もOさん、少しおいてY君がやってきた。この厳しい状況下においてさえも、話の後半には二人とも保護者への感謝の気持ちを述べてくれた。最後に少しだけ意地悪な質問をした。「あなたにとっての「藤高クオリティ」ってどんなこと？」二人とも自分の言葉で自分が考える「藤高クオリティ」について話してくれた。今年度、様々な機会を捉えて触れてきたこの言葉。どれくらい染みていたのだろうかと気になっていたけれど、彼らなりに考えていてくれたことがうれしかった。ありがとう。

25日から国公立大学の個別試験が始まる。遠隔地での受験となる生徒も多い。どうか最後まで精一杯力を尽くして欲しい。東京大2年の上田彩瑛さんはこう書いている。

「（前略）私は試験の日、机にへばりついてでも問題を解こうという気持ちで臨みました。（略）諦めたら終わりです。最後まで粘ってください。」（2月14日付 朝日新聞「受験する君へ」）

何と力強い言葉だろう。「藤高クオリティ」にこの「最後まで粘ること」を加えてみよう。

そう、最後まで諦めるな！ 机にへばりついて最後の一押しを！